

## 東日本大震災3周年シンポジウム

主催：日本建築学会

後援：日本学術会議、土木学会、日本都市計画学会、農村計画学会、空気調和・衛生工学会、  
建築設備技術者協会、日本建設業連合会、日本建築家協会、日本建築構造技術者協会、  
日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、日本都市計画家協会（順不同）

2011年3月11日に東日本で発生した大災害からはや3年が経過した。日本建築学会では、その持てる知を動員して緊急提言をまとめ、社会に対して発信を行った他、被災地で活動するプロジェクトのいくつかを支援した。そうした活動は、被災地において悲嘆にくれている人とたちを勇気づけ、復興の方向性を示すなど、具体的成果を上げている。

しかし、その一方で、それらの支援は、相互に独立し、大きなシステムとして動く復興事業そのものへの影響力が限定されるなど、実務面では課題も抱えていた。また、依然として大きな困難の中にある福島については、その全体的な状況すら十分に共有されていないという状態にあった。

発災から3年が経過した現在は、これまでの地域に入ってコミュニティレベルで行う支援に加え、被災自治体が実際に直面している課題に共同して取り組む、組織的な対応の段階に入っているということができよう。そうした問題意識に立って、日本建築学会では、3年目を迎える2013年3月の2日間に、関係者が集まり、問題の構造について議論を深めるシンポジウム等を企画する。

初日の午前中には、今回の災害から得られた知見を、首都災害や東南海地震など、想定される災害にどのように生かすかを検討してきた「巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会」の報告をもとに議論を行う。午後には、復興活動に関わってきた諸団体の活動についての報告を聞く。

二日目は、復興の全体像を包含するセッションを午前と午後とに分けて展開する。午前中は、体系的に議論することが難しかった福島のケースについて、これまで深く関わってきた学識者に報告していただきながら、都市・建築の専門家が取り組むべき課題とその解決に向けての方策を議論する。午後には、福島よりは進んではいるものの、進行中の難しい問題を数多く抱えている岩手・宮城の報告を中心として、現在の日本の復興システムが抱える課題とその解決の方法について議論する。会の進行に当たっては、状況を共有するだけでなく、会場を交えた積極的な議論を展開する予定である。

また、会期中、建築会館の建築博物館ギャラリーにおいては、被災地の復旧・復興支援に関するパネル展示を行って、復興の全体像の理解にも努めていく。

日本建築学会 会長 吉野 博

開会挨拶

吉野 博（日本建築学会会長／東北大学名誉教授）

◆「巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会」活動報告（10:10~12:50）

コーディネーター：福和伸夫（同委員会委員長／名古屋大学）

司会：菊地優（北海道大学）

記録：村上公哉（芝浦工業大学）

1. 趣旨説明

福和伸夫（前掲）

2. 課題の解説

(1) 過大外力に対する建築と都市の性能 WG 報告

塩原 等（東京大学）

(2) 長周期地震動等への対策と建築・エリアの即時対応 WG 報告

久田嘉章（工学院大学）

(3) 建築・地域・都市におけるエネルギー需給の再考 WG

田辺新一（早稲田大学）

(4) 復興と予防に資する減災都市設計・計画 WG 報告

北原啓司（弘前大学）

(5) 巨大災害時の住の確保と生活再建について

大月敏雄（東京大学）

3. 討論

パネリスト 5名＋中島正愛（京都大学）＋加藤孝明（東京大学・進行役）

4. まとめ

牧 紀男（京都大学）

<休憩>

◆関連団体活動報告会

(13:30~17:40)

司会：岩田 衛（日本建築学会副会長／神奈川大学）

(1) 日本学術会議における東日本大震災復興支援の取り組み

大西 隆（日本学術会議会長／慶應義塾大学）

(2) 土木学会における東日本大震災の復興支援と今後の災害への備え

橋本鋼太郎（土木学会会長）

(3) 空気調和・衛生工学会

坂上恭助（空気調和・衛生工学会前学術理事／明治大学）

(4) 専門家による後方支援の可能性と課題

ーきたかみ震災復興ステーションの活動からー

北原啓司（日本都市計画学会復興まちづくり部会長／弘前大学）

(5) 東日本大震災に対する農村計画学会の取り組みと計画的課題  
糸長浩司（農村計画学会大震災復興特別委員長／日本大学）

(6) 建築設備技術者協会  
石神哲史（建築設備技術者協会副会長／山下設計）

<休憩>

(7) 日建連における災害対策活動  
福田雄一（日本建設業連合会常務執行役）

(8) JIA の災害への取り組み  
岡部則之（日本建築家協会災害対策委員会委員）・手島浩之

(9) 東日本大震災以後の3年間の活動  
金箱温春（日本建築構造技術者協会会長）

(10) 日本建築士会連合会  
山中保教（日本建築士会連合会参与）

(11) 建築士事務所協会の取り組み  
高津充良（日本建築士事務所協会連合会専務理事）

(12) 復興まちづくりに向けたJSURPの活動  
渡会清治（日本都市計画家協会副会長）

**3月12日（水）9:30～18:00**

会場：建築会館ホール

◆「震災復興の支援に関するタスクフォース」活動報告

1. 発災から3年目における建築学会の貢献  
ー震災復興支援タスクフォースの組織化とその課題ー  
小野田泰明（東北大学）

2. 午前の部：福島県セッション (9:40～13:10)  
司会：土方吉雄（日本大学）  
記録：市岡綾子（日本大学）

(1) 福島県の現況と課題  
鈴木 浩（福島大学名誉教授）

(2) 広域で問題を考える  
・放射能汚染濃度の分布と計測  
渡辺浩文（東北工業大学）

・線量別の居住状況からみた居住復興の方向性  
石坂公一（東北大学）

・ディスカッション 広域での議論を成功させるために  
コーディネーター：川崎興太（福島大学）

<休憩>

(3) 常態化する避難生活への対応

- ・避難生活と二地域居住

浦部智義（日本大学）

- ・仮設住宅からの環境移行

岩佐明彦（新潟大学）

- ・ディスカッション 長期的避難生活環境は如何に構築すべきか

コーディネーター：大月敏雄（東京大学）

(4) 会場を交えた討議

コメンテーター：間野 博（福島大学）、長谷川洋（国土交通省）他

3. 午後の部：岩手県・宮城県セッション

(14:10～17:40)

司会：塩崎賢明（立命館大学）

記録：福屋粧子（東北工業大学）

(1) 東日本大震災 津波被災地復興の現在

塩崎賢明（前掲）

(2) まちづくりと合意形成

- ・話題提供：岩沼市防災集団移転事業「玉浦西地区のまちづくり」

高橋伸明（岩沼市復興整備課長）

- ・震災復興まちづくりにおける合意形成の課題—名取市閑上の事例を通じて—

村尾 修（東北大学）

- ・ディスカッション 自治体の復興まちづくりと合意形成

コーディネーター：森 傑（北海道大学）

<休憩>

(3) 復興の課題について考える：復興と建築学

- ・話題提供：石巻市における復興事業

近江恵一（石巻市基盤整備課長）

- ・震災3年後における復興計画の課題

姥浦道生（東北大学）

- ・被災地における暮らし・福祉と建築学の蓄積と貢献

石井 敏（東北工科大学）

- ・被災地の地域生産力とストック管理の課題

岩田 司（建築研究所）

- ・ディスカッション 暮らしを再生させるカギは何か

コーディネーター：野原 卓（横浜国立大学）

(4) 会場を交えた討議

コメンテーター 出口 敦（東京大学）他

最後の挨拶

古谷誠章（日本建築学会副会長／早稲田大学）

3月4日(火)～20日(木) 9:30～19:00

会場: 建築博物館ギャラリー

土・日・祭日・最終日は17:00まで

◆復興住まい・まちづくり展

キュレーション:

北原啓司 (住まい・まちづくり支援建築会議運営委員会委員長/弘前大学)

三宅 諭 (住まい・まちづくり支援建築会議復旧・復興部会長/岩手大学)

【主なパネル】

- ・ 仙台平野の新たな農ある暮らしの復興デザイン  
仙台平野再生支援ボード (東北工業大学 新井信幸)
- ・ 石巻市街なか復興まちづくり計画案の概要  
コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会 (東北大学 姥浦道生・苅谷智大)
- ・ 海と人をつなぐ漁業体験施設  
宮城大学事業構想学部竹内泰研究室
- ・ 気仙沼階上杉の下集落における住まい再建支援  
首都大学東京市古研究室、杏林大学大木研究室、連健夫建築研究室
- ・ 新潟県中越地震からの復興状況について  
ー「地域」を対象としたアンケート調査からー  
長岡造形大学 澤田雅浩 (中越防災安全推進機構 復興プロセス研究会)
- ・ 住民主導による防災集団移転の計画技術  
小泉地区集団移転協議会、北海道大学建築計画研究室 (森傑)、  
株式会社アトリエブク
- ・ きたかみ震災復興ステーション  
北原啓司 (弘前大学)、菊池広人、村上早紀子
- ・ 生業・観光業の復興に向けた支援活動ー岩手県山田町を対象としてー  
岩手大学三宅研究室、岩手大学三陸復興推進機構地域コミュニティ再建支援班
- ・ 岩手県遠野市におけるコミュニティケア型仮設住宅の提案と実践  
東京大学仮設まちづくり支援チーム (大月敏雄、小泉秀樹、富安亮輔)
- ・ 大槌高校まちづくり提案プロジェクト  
東京大学仮設まちづくり支援チーム (大月敏雄、小泉秀樹、富安亮輔)
- ・ 気仙沼市内湾地区における防潮堤問題と住民主体のまちづくり  
早稲田大学都市・地域研究所 (阿部俊彦、松村尚之、藤岡諒、益子智之)
- ・ 復興公営住宅を迎え入れる地元の取り組み 仙台青葉区霊屋下 (おたまやした) 地区  
東北工業大学 小杉学
- ・ 応急仮設住宅の課題と取り組み  
新潟大学工学部岩佐研究室
- ・ 遠地長期避難者に対する受入側の支援方法  
ー東京都江東区「東雲住宅」を事例としてー  
倉持康平、志村秀明 (芝浦工業大学)
- ・ 南海トラフを震源とする巨大地震に備える防災人材育成プロジェクト  
三重大学 美し国おこし・三重さきもり塾 (三重大学 浅野聡)

- ・広域に何者による多居住・分散型ネットワークコミュニティの形成  
ー福島県浪江町・二本松市を中心とした市民版復興シナリオの作成ー  
早稲田大学都市・地域研究所／建築学科助手 白木里恵子
- 

参加費：会員 4,000 円、後援団体会員 5,000 円、学生（修士まで）3,000 円、会員外 6,000 円、  
東日本大震災および一連の災害による被災地から参加の方 3,000 円

（2 日間のシンポジウム参加費およびシンポジウム梗概集代\*）

\*シンポジウム梗概集：3/11 の「巨大災害からの回復力が強いまちづくり特別調査委員会」活動報告、関連団体活動報告会（12 団体）、3/12 の「震災復興の支援に関するタスクフォース」活動報告の梗概および復旧復興支援まちづくり展出展一覧を収録

申込方法：本会ホームページ「催し物・公募一覧」からお申し込みください。

<https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=709>

動画配信（有料）も行います。お申し込みはこちらから

<http://www.aij.or.jp/index/?se=eventlist&ac=view&id=712>

**事前申込みは終了いたしました。当日受付をいたします。**

問合せ：日本建築学会事務局 三島 [mishima@aij.or.jp](mailto:mishima@aij.or.jp) TEL03-3456-2056